

子もすごいが
父もすごい



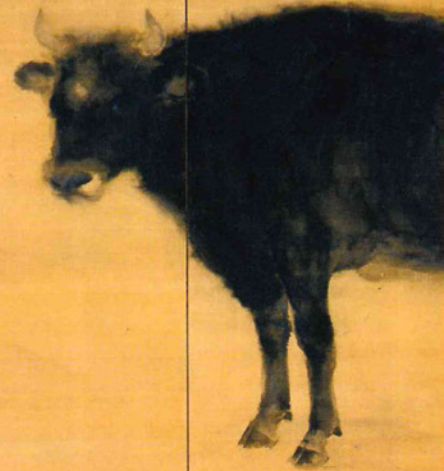
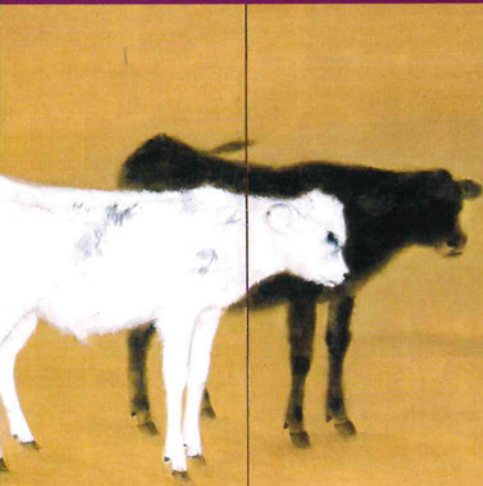
平福穂庵

平福穂庵「乳虎」 秋田県立近代美術館所蔵

開館30年記念

Hirafuku Suian & Hyakusui

平福穂庵 父子展 百穂



平福百穂「牛」(部分) 秋田県立近代美術館所蔵

父子展

2018.10.2[火]→11.18[日]
仙北市立角館町平福記念美術館

午前9時～午後5時 [会期中無休]
(入館は4時30分まで)
〒014-0334 秋田県仙北市角館町表町上丁4-4
TEL.0187-54-3888 FAX.0187-54-3890

入館料 / 一般(高校生以上) 300円
小人(中学生以下) 200円
※仙北市民は無料

主催 / 仙北市・仙北市教育委員会 主管 / 仙北市立角館町平福記念美術館 協力 / 秋田県立近代美術館
後援 / 秋田魁新報社 朝日新聞秋田総局 毎日新聞秋田支局 読売新聞秋田支局 産経新聞社秋田支局 日本経済新聞社秋田支局 河北新報社
NHK秋田放送局 ABS秋田放送 AKT秋田テレビ AAB秋田朝日放送 エフエム秋田

ごあいさつ

平福記念美術館は今年で開館30年を迎えます。それを記念して「平福穂庵・百穂父子展」を開催する運びとなりました。

平福穂庵は17歳の時に画家を目指すべく、京に上り修業の日々を送りました。故郷に戻ってからも、一ヶ所に留まらず、北海道に渡るなど、精力的に作画活動の幅を広げました。平福百穂が、そんな自由奔放な父から絵の手ほどきを受けた時間はほんの一瞬でしたが、穂庵亡き後、16歳で画家を目指すべく、上京し穂庵と交流のあった川端玉章の元で修行をスタートさせ、後の画家人生を歩んでいきます。

穂庵享年46歳、百穂享年55歳と共に、決して長いといえる画家人生ではありませんでしたが、二人が遺してくれた作品には、そこから伝わる二人の情熱や愛情といったものがいつまでも褪せることなく、観る者の心をとらえます。

今回、常設展示室、企画展示室の二部屋を使つての展示です。穂庵の力強く引き込まれるような迫力のある作品から百穂の写実にこだわり、優しい



穂庵「乞食図」秋田県立近代美術館所蔵

眼差しで対照を捉えた作品等約50点を紹介しています。父と子、二人の作品の共通点や違いなどを考察しながらご鑑賞いただけるとまた違った楽しさが見えてくるかもしれません。ぜひこの機会に平福父子の作品をお楽しみください。

最後に今展覧会開催にあたり、ご協力賜りました関係者の方々に、心より感謝申し上げます。

平福記念美術館



穂庵「江口の君」秋田県立近代美術館所蔵



百穂「富貴之壺」秋田県立近代美術館所蔵



■略歴

平福 穂庵

ひらふく すいあん
1844 - 1898 (弘化元 - 明治23)

角館町生まれ。幼い頃から、画才を発揮。17歳の時、京都へ遊学。帰郷後、北海道などにも赴き、アイヌを題材とした作品を制作。1890年(明治23年)、第3回内国勸業博覧会に「乳虎」を出品。妙技二等賞を受けるも、同年46歳で死去。

平福 百穂

ひらふく ひやくすい
1877 - 1933 (明治10 - 昭和8)

角館町生まれ。穂庵の第4子。本名貞蔵。幼い頃、穂庵に画の手ほどきを受ける。父の死後、東京に上京し画を学ぶ。結城素明(ゆうきそめい)らと共に「无声会(むせいかい)」を結成し活動。アララギ派の歌人としても知られる。昭和7年、東京美術学校教授となるも、昭和8年55歳で死去。



百穂「秋草図」秋田県立近代美術館所蔵

